



市場動向 I Trends in the Market for Vitamins

ビタミンの市場動向

編集部

わが国のビタミン市場は、主に酸化防止剤として利用されるVCとVEを中心に市場が形成されており、概ね安定推移を続けている。セルフメディケーションの概念が浸透し、ビタミンをサプリメントで摂取する習慣のある米国とは違い、日本はそのほとんどが食事由来であり、さらなる市場拡大のためにはきちんとした微量栄養素の啓蒙が必要といえる。このような中、VDは免疫賦活、抗インフルエンザ効果などの新知見から、ルテインはAREDS2の結果が5月に発表される予定で注目を集め、今後の市場拡大は必至と見られ、動向に目が離せない。本稿では、各種ビタミンの最近の話題と市場動向を中心みていく。

ビタミンの市場動向

米国では国民皆保険制度がなかったことで、早くから微量栄養素の啓蒙が行われビタミンをサプリメントで補給することが定着しており、健食市場の中でもNO.1の人気を誇る。一方、日本ではもともと医薬品か食品添加物（酸化防止目的）での利用が中心で、サプリメントでビタミンを補給するという概念の普及は遅れていた。その後、栄養機能食品制度ができた01年以降に、サプリメントや栄養強化食品でビタミンを摂取することが定着し始め、現在はVCとVEを中心に安定した市場を形成している。とはいっても、健食市場においては、“美容”、“関節”、“アイケア”といった健康機能を訴求した製品への人気が高く、ビタミンやミネラルといった単なる成分だけを打ち出した製品は訴求が弱いといった問題点もあり、成長を続ける米国市場とは違い大きな伸びはみられない。

ここ最近、新たな知見から注目を集め堅調な推移を示しているのが葉酸、VD、VK、ルテイン・アスタキサンチンなどのカロテノイドだ。なかでも注目なのがVDとルテインで、VDは免疫系疾患や生活習慣病予防の観点から積極的な摂取が必要とされ需要がにわかに増加、2~3年前と比べると市場規模は約1.5倍に成長。ルテインについては、一時停滞した期間もあったが、米国・NIHが進めた5年間の大規模臨床試験AREDS2の結果への期待感と加齢性黄斑変性の進行抑制効果に加えブルーライトのダメージ緩和効果という新たな訴求点が加わったことで需要が増

え再び上昇に転じている。

ビタミンの摂取状況と課題

厚生労働省が発表した「国民健康・栄養調査」で、05年から11年までの3年ごとのビタミンの平均摂取量をみてみると、総じて減少傾向にあることが分かる（表1）。その理由としては、野菜・果物に含まれるそもそもビタミン含量の減少に加え、野菜・果物の摂取量・摂取機会の減少などが考えられる。

サプリメント大国である米国では、“セルフメディケーション”という概念が浸透していることもあり、サプリメント摂取への抵抗感が低い。そのためか、米国の健食市場は2001年から2010年まで毎年成長を続け、市場規模は約281億ドルと推計されている。しかも、そのうちビタミンが占める割合が34.2%と最も高く、市場規模は推計96億ドルで、ビタミンをサプリメントなどの食事以外から積極的に

摂取していることが伺える。

一方、日本におけるビタミンの摂取起源について、平成23年の「国民健康・栄養調査」でみてみると、男性のVCの平均摂取量104mgのうち、90mg(86.5%)が「通常の食品」、8mg(7.6%)が「強化食品（通常の食品に強化されている）」、5mg(4.8%)が「補助食品（顆粒・錠剤・カプセル・ドリンク状の製品）」からとなっており、サプリメントからの摂取は極めて少ないことが分かる。

医療費の増大が深刻化するなか、わが国でも米国のようなセルフメディケーションが必要な時代がここまで来ており、そのためにはまず、健康食品の表示の規制緩和や栄養教育といった行政レベルでのインフラ整備が望まれる。

ビタミン原料の動き

ビタミンC

財務省貿易統計によると、2012年の

表1 ビタミンの摂取状況

種類	男性			女性			単位	
	推奨量 または 目安量	2005	2008	2011	推奨量 または 目安量	2005	2008	
A	850	627	626	548	700	585	571	518
D	5.5	8.4	8.4	7.6	5.5	7.5	7.3	6.6
E	7.0	8.3	8.1	7.6	6.5	9.2	9.0	8.0
K	75	249.6	240	224	65	244.5	228	219
B ₁	1.4	1.50	1.47	1.50	1.1	1.39	1.57	1.48
B ₂	1.6	1.45	1.40	1.49	1.2	1.39	1.42	1.44
ナイアシン	15	16.9	16.1	15.8	12	14.1	13.2	12.9
B ₆	1.4	1.87	1.62	1.81	1.1	1.75	1.87	1.64
B ₁₂	2.4	7.83	7.5	6.8	2.4	6.64	6.1	5.51
葉酸	240	214.7	312	286	240	303.9	294	276
パントテン酸	5	5.90	5.74	5.59	5.00	5.20	5.01	4.91
C	100	113.5	106	104	100	133.1	130	116

推奨量：日本人の食事摂取基準（2010年版）の30~49歳 平均摂取量：国民健康・栄養調査で示される総数の平均
A…レチノール当量として（プロビタミンAカロテノイドを含む）、E…α-トコフェロール量として